

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2992000022		
法人名	有限会社 永真会		
事業所名	グループホーム磯城		
所在地	奈良県磯城郡田原本町阪手496番地の1		
自己評価作成日	令和2年8月25日	評価結果市町村受理日	令和2年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	令和2年9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季を理解して頂くために入居者全員で意見を出し合い四季折々の風景や花などを折り紙やイラストを作成し施設内に壁紙とし展示している。又、出来るだけ多く外出の機会を設け閉じこもりにならないようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年に開設された1ユニットの事業所は、田原本町中心部の国道沿いにあります。館内には適度な光も差し込み、清潔感のある家庭的な雰囲気となっています。当事業所は開設当初から地域との繋がりを大事にし、自治会に加入をして清掃活動や地域の行事に参加され、例年、事業所の催し(夕涼み会)には近隣の方々が来られるといった形で互いに交流を図っておられます。また、「人生楽しく」の理念のもと、年間行事として少人数を活かした一泊旅行の企画や、家庭にいるような感覚で出来るだけ多く外出の機会を取り入れる等、柔軟な対応をされており、利用者は自分のリズムで穏やかに過ごしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域で共に生活している住民として地域との関わる機会を多くしながら認知症への理解を深めてもらう様交流を深めていく。	玄関に掲示された理念を職員全員で共有しながら、毎日楽しく過ごしていただけるよう日々のケアサービスに取り組んでおられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の掃除行事に参加させてもらっている。	地域の一員として地蔵盆や清掃活動に参加され、例年、事業所の夕涼み会には近隣の方々が来られるといった形で互いに日常的に交流を図っておられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設外の散歩やスーパー等を利用し認知症の理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の家族や行政の方々に参加して頂き意見交換や情報交換をし施設運営に取り組んでいる。	運営推進会議では事業所状況等の報告と意見交換が行われ、必要に応じて検討を加えながらサービスの向上に活かしておられます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状の人数把握、家族との連携入居者の状況等を報告している。	市町村担当者には日頃から現場の状況等の報告が行われており、協力関係が構築されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の巡回を増やしたり、見守り、様子把握を行い常に職員同士の話し合いをおこなっている。	研修会等を通じて職員は身体拘束の弊害を正しく理解し、職員間の話し合いを密にしながら身体拘束をしないケアに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止に努めており日々の引継ぎにより職員の意識の統一を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料や書類に目を通し学びながら現状の入居者様が利用する際スムーズに活用出来るように習得している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に立ち会って頂き不安や疑問のある時は納得して頂けるまで説明させて頂く。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回支払い時に必ず施設への要望を家族から聞き要望をすぐに反映出来るように職員間で話し合い実行している。	コロナ禍で面会は出来ませんが、利用者の思いや状態については日常の中で把握をし、家族に手紙等で報告をしながら、意見・要望を出してもらえるように配慮されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議や研修を行い意見交換し運営につなげている。	日頃からコミュニケーションを図るように心がけ、職員からの意見・提案については、しっかりと受け止め運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、主任が常に勤務状態を把握し、各自向上心を持って働けるよう相談等に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修以外に県の主催する研修等にも参加しスキルアップにつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の職員とお互いの施設における相談、活動内容などを話し合い良い面を教えて頂き支援にあたるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者全員の行動、言動を見逃すことなく素早く対処することにより信頼関係が生まれる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や電話で家族からいろいろな意見をうかがい必ず実行する事で信頼して頂ける。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の意向必要な支援を話し合いサービスの実施を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物たたみ等出来る方には手伝っていただき職員と共に作業をすることで信頼関係を築いていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者との家族関係や思いなど常に把握し共に心の平安を持って頂く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が希望すれば出来る範囲で希望する場所に行ったり馴染みの人に面会に来てもらっている。	利用者の希望があれば可能な範囲内で馴染みのところに出掛けるようにし、本人がこれまで大切にされてきた継続的な交流が途切れないよう支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個々の能力に応じ常に何が出来るか職員間で話し合い入居者全員で協力し合える支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話や来所して頂き相談等を傾聴し関係維持に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり思いや考え方が違うので1対1で話し合う機会を設け出来るだけ本人の思いを取り入れる。	利用者とは時間的に余裕のある夜勤時に話をしたり、担当の職員が日々の関わりの中での言葉や表情などから利用者の思いや意向を推し測っておられます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の事は、今までの資料を参考にしながら同居していた身近な家族に教えて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムが違う為個々に応じた対応を、細やかにしている。変化があればその都度話し合いの場を持っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様が意欲を持って課題を達成出来るように支援しながら、家族の意見も反映させるように作成している。	利用者が自分らしく楽しく暮らせるように、家族の意見や思いを反映したカンファレンスを行い、3ヶ月毎に現状に即した介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当職員間ではうまく意思疎通がとれており、情報交換も密に行い実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員全員の意見を取り入れ、その都度一番良いと思われる対処方法をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	情報源として地域の図書館へ行き知識を得たり近くのスーパーで買い物という一連の流れを発揮して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続してかかりつけ医で受診されている方や委託医に往診していただいている方がおられます。委託医に関しては、いつも連絡が取れるようにしていただいています。	基本的には月2回の嘱託医による訪問診療で対応されており、歯科については月1回医師の訪問による受診となっていますが、かかりつけ医を希望される場合は家族対応で、納得して適切に医療が受けられるよう情報提供をされています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の心身の状態を相談、報告をし、指示をあおいでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に容態を伺い、退院後の参考にしたりその後の状態の変化について相談出来るよう、担当医とも密に連絡を取れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けて書類作成し、家族の同意を得たうえで、どこまでの支援を提供するか話し合い地域の病院把握と委託医へ情報を共有している。	重度化した場合や終末期には、家族の同意を得た上で、どこまで支援をするのか家族や関係者が話し合い、病院や嘱託医と情報を共有しながらチームで支援されています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行ない訓練も行っている、マニュアルを参考にしながら実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導の避難訓練を行い、グループホーム独自でも行っている、会議で話し合い地域の方々にも協力を仰ぐ。	消防署指導のもとでの避難訓練を年1回と事業所独自の訓練を年2回実施されており、自治会の参加もあります。また、災害の発生時に備えて、屋内と屋外に備蓄もされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の人に対する言葉かけを基本とし人格を尊重しながら日々対応している。	家庭的な雰囲気大切にしながら、利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けやプライバシーを損ねない接し方に努めておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各自が何が好みなのかを把握し出来るだけ自分で決めてもらえる様に働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体に良い事は出来るだけ参加して頂きその後は各自ゆっくりと一日を過ごして頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時洗顔や整髪を行い各自自分の着る服を選んで頂いております、外出時は女性の方は、軽く化粧をされる方もいらっしゃいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事は、職員と一緒にしています。テーブル拭き、配膳、食器拭き、器への盛り付け	栄養士作成の献立ですが、時には利用者の好みのメニューを取り入れたり、可能な利用者には食事の後片付けを手伝ってもらおう等、食事への喜びや楽しみを引き起こす工夫をされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各自の栄養状態を把握しバランスのとれた食事をして頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後洗面所にて歯磨きをして頂いております、入れ歯の方は、夜間入れ歯を預かり、入れ歯洗浄をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄パターンを把握し各自に合わせた声かけをして失敗を減らす様に支援しています。	排泄記録を参考に、利用者一人ひとりの排泄パターンに応じて声掛け等を行いながら、自立に向けた支援をされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く摂取していただき歩行訓練や散歩をして頂き軽く身体を動かして頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ希望を尊重するようにしています。事故のないように見守り、支援を行っています。	入浴は週2回と決められていますが、入浴を楽しめるよう出来るだけ利用者の希望を大切にした支援をされています。また、入浴室には1人用と3人用の浴槽もあり、車いす対応のシャワーも備え付けられています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自希望時ゆっくりと休んで頂きます。就寝時間は9時になっておりますが各自自分のペースで休んで頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の服薬内容の把握に日々対応しています。服薬時、服薬後の様子も確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に応じて行なっています。食事のお手伝い、新聞を読んだり、クロスワードをしたり、気の合う人同士のおしゃべり、外出、買い物等。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の面会の時に家族と共に外出し、本人と楽しく過ごしてもらい、家族が普段あまり連れて行けない場所にも職員の支援で共にかけられる。	コロナ禍で外出支援もままなりません。例年、少人数を活かした一泊旅行や、利用者の思いが叶えられるよう、職員が個々に外出する機会を取り入れておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのスーパーに買い物に出かけ、支払い時には職員が支援したり見守りを行なっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがきは出したい時にかいて貰っています。年賀状や暑中見舞いのはがきは必ず書いてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を第一に見た目も綺麗にしています。季節に応じた置物を変えたりしています。	館内は清潔感に溢れ、ホールには畳のスペースや五感刺激と季節感を醸し出す作品等が飾られており、家庭的な居心地のよい共用空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い入居者様同士同じテーブルに座って頂き会話を楽しんで頂いたり、ストレスのかからないように自由にして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様や家族の方と相談し自分の気に入ったお部屋にされています、仏壇、テレビ、椅子など置いておられる方もあります。	エアコン・ベッド・クローゼットが備え付けられた居室には利用者の気に入ったものが持ち込まれ、居心地の良い居室づくりをされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	足元の安全をはかり明るい生活空間をとり、居室の清掃など簡単な作業は行なっています。		